

令和6年度

# 事業計画

令和6年

## ◆令和6年度 事業計画書

### 事業計画書

#### I. 公益目的事業① 五島美術館

##### 1. 展示事業

###### 1-1. 展覧会名とその概要

###### (1) [館蔵]春の優品展 ―王朝文化へのあこがれ―

2024年4月6日[土]―5月6日[月・振]

平安時代に花ひらいた王朝文化。後世、その華やかな世界へのあこがれからうまれた作品も少なくない。五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、平安時代の古筆をはじめ、絵画など名品約50点を展観し、雅やかな世界を紹介する(会期中一部展示替あり)。あわせて2023年度に受贈した書跡6点を初公開。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(4月29日・5月6日は開館)、4月30日[火]

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻 鈴虫一・鈴虫二・夕霧・御法」

4月27日[土]―5月6日[月・振]

###### (2) [館蔵]近代の日本画展

2024年5月11日[土]―6月16日[日]

館蔵の近代日本画コレクションから、「花鳥画」を中心に、橋本雅邦、川端玉章、横山大観、川合玉堂、安田靉彦、前田青邨、川端龍子、金島桂華など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約40点を選び展観する。大東急記念文庫創立75周年記念特集展示として、日本の古代から中世の歴史資料も同時公開する(会期中一部展示替あり)。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

###### (3) [館蔵]夏の優品展 ―一味爽涼―

2024年6月22日[土]―7月28日[日]

「夏」と「涼」をテーマに、五島美術館の収蔵品から、絵画、書跡、陶芸、古鏡の優品約50点を選び展観(会期中一部展示替あり)。夏の情景を詠んだ古筆、日本画に表された消暑風景、清雅な禅僧の墨跡、涼しさを感じる白磁や青花磁器を紹介する。特集展示として、館蔵の日本陶磁コレクションも同時公開。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(7月15日は開館)、7月16日[火]

館内整備のため休館＝2024年7月29日[月]―9月2日[月]

(4)[館蔵]秋の優品展 ―一生に一度は観たい古写経―

2024年9月3日[火]―10月14日[月・祝]

五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から古写経の名品約50点を厳選して展観する(会期中一部展示替あり)。奈良時代の謹厳な一切経や平安時代の華麗な装飾経など、質量ともに日本随一を誇るコレクションの、一生に一度は観たい優品展。

大東急記念文庫創立75周年記念特集展示として、鎌倉から江戸時代の絵巻、絵本も同時公開する(会期中一部展示替あり)。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(9月16日・9月23日・10月14日は開館)、9月17日[火]、9月24日[火]

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻 五島本第一・二・三段」

10月5日[土]―10月14日[月・祝]

特別講演会＝9月22日[月・祝]赤尾栄慶氏(京都国立博物館名誉研究員)

(5)[特別展]古裂賞玩 ―舶来染織がつむぐ物語―

2024年10月22日[火]―12月1日[日]

江戸時代に作られた美しい舶来織物を集めた大名家の「裂手鑑」をはじめ、名物茶入と「仕覆」、「名物裂」で表装された唐物絵画、豪商の「裂箆笥」、茶道具に付属する「古渡り更紗」などを展観(会期中一部展示替あり)。世界に例を見ない日本の古裂鑑賞の文化とそれを創り出した舶来染織の影響を紹介する。

一般1400円／高・大学生1100円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(11月4日は開館)、11月5日[火]

特別内覧会＝10月21日[月]

記念講演会＝(日程未定)

(6)[館蔵]茶道具取合せ展

2024年12月10日[火]―2025年2月16日[日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約70点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懐石道具・炭道具のほか、武野紹鷗や千利休など茶人ゆかりの茶道具と楽歴代の茶碗を中心に道具の取合せを展観する。特集展示として、茶事に用いる様々な懐石道具を同時公開。

一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(1月13日は開館)、12月26日[木]―1月6日[月]、1月14日[火]

(7)[館蔵]中国の陶芸展

2025年2月22日[土]―3月30日[日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約60点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、

2000年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。特集展示として、館蔵の刀剣コレクションも同時公開。

一般 1100 円／高・大学生 800 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(2月24日は開館)、2月25日[火]

### 1-2. 入館者数

年間の入館者数は、新型コロナ禍により、2万人台まで減少したが、2023年度にはコロナ禍前の水準まで回復した。2024年度については、新たな来館者層を取り込み、平年並みとなる5.5万人を目指す。

(単位:入館者＝人、開館日＝日)

	有料	無料	計	入園者	合計	開館日	一日平均
(1) [館蔵]春の優品展 ―王朝文化へのあこがれ― 2024年4月6日[土]―5月6日[月・振]	7,420	696	8,116	453	<b>8,569</b>	27	317
(2) [館蔵]近代の日本画展 2024年5月11日[土]―6月16日[日]	7,918	469	8,387	218	<b>8,605</b>	32	269
(3) [館蔵]夏の優品展 ―一味爽涼― 2024年6月22日[土]―7月28日[日]	3,842	635	4,477	118	<b>4,595</b>	32	144
(4) [館蔵]秋の優品展 ―一生に一度は観たい古写経― 2024年9月3日[火]―10月14日[月・祝]	6,228	553	6,781	234	<b>7,015</b>	37	190
(5) [特別展]古裂賞玩 ―舶来染織がつむぐ物語― 2024年10月22日[火]―12月1日[日]	10,650	1,700	12,350	650	<b>13,000</b>	36	361
(6) [館蔵]茶道具取合せ展 2024年12月10日[火]―2025年2月16日[日]	7,118	813	7,931	191	<b>8,122</b>	50	162
(7) [館蔵]中国の陶芸展 2025年2月22日[土]―3月30日[日]	4,416	474	4,890	204	<b>5,094</b>	32	159
<b>【合計】</b>	<b>47,592</b>	<b>5,340</b>	<b>52,932</b>	<b>2,068</b>	<b>55,000</b>	<b>246</b>	<b>224</b>

### 1-3. 付帯事業

展示事業に関連して、美術館と展示・収蔵品を広く全国の方々に紹介する効果がある東急グループの「五島美術館名品集」カレンダーの制作・監修を行う。また、「源氏物語絵巻」をはじめ展示・収蔵品に因んだオリジナルグッズなどの制作・監修、館内ミュージアムショップ等での販売も実施する。

## 2. 調査・研究・保存事業

### (1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続し、新規収蔵品等を中心に調査を進める。より正確なデータベースを構築するため、デジタルアーカイブへの取組みを進める。

## (2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

## (3) 美術品の補修

館蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、修理を行う。本年度は「小倉色紙 伝 藤原定家筆」を修復する予定。

## (4) 美術品の保存

今後の保存対策のため、収蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。また、収蔵庫内の収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。作品を保護するための包み裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。併せて防虫・防黴のため IPM(総合的有害生物管理)を実施する。

## (5) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

## (6) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

・全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会(大会出席)。

・各種研究会および研修会参加(染織文化史研究会、茶書研究会、文化庁企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、源氏絵データベース研究会、関西中国書画コレクション研究会)。

・科学研究費助成事業への参加。

・「世田谷区文化・芸術振興計画」検討委員会への参加。

## (7) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、全国美術館会議、私立美術館会議、東洋陶磁学会、漆工史学会などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていく。また、受入れ態勢の許す範囲で博物館学および同実習教育を実施する。

## (8) ホームページ等の運営

五島美術館の公式ホームページ(URL=<https://www.gotoh-museum.or.jp/>)を充実し、インターネット上での美術館や収蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツ

の拡充を目指す。また、館内での通信環境を再整備し、フェイスブック、X(旧ツイッター)など SNS の有効活用を促進する。

#### (9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

#### (10) 日本伝統工芸展への協賛

公益社団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

#### (11) 国等各種公共機関・団体・大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の美術教育事業、専門機関への助言、大学への職員の派遣等、美術館で必要と認められる対外活動を行なう。

### 3. 普及事業

#### (1) ギャラリートーク(展示解説)― 一般入館者対象

・[館蔵]春の優品展 ― 王朝文化へのあこがれ ―

2024年4月18日[木]、4月25日[木]、4月27日[土]、5月1日[水]、5月6日[月・振]の5回

・[館蔵]近代の日本画展

2024年5月14日[火]、6月5日[水]の2回

・[館蔵]夏の優品展 ― 一味爽涼 ―

2024年6月26日[水]、7月11日[木]、7月25日[木]の3回

・[館蔵]秋の優品展 ― 一生に一度は観たい古写経 ―

2024年9月5日[木]、9月12日[木]、9月26日[木]、10月3日[木]、10月9日[水]、10月14日[月・祝]の6回

・[特別展]古裂賞玩 ― 舶来染織がつむぐ物語 ―

未定

・[館蔵]茶道具取合せ展

2024年12月18日[水]、2025年1月15日[水]、1月23日[木]、2月5日[水]の4回

・[館蔵]中国の陶芸展

2025年2月24日[月・振]、3月25日[火]の2回

\* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(2) 茶会(当館主催)一茶の友会会員対象

- ・第1回=2024年11月14日[木]—17日[日]の4日間
  - ・第2回=2025年3月13日[木]—16日[日]の4日間
- \* 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(3) 陶芸講座(当館主催)一美の友会会員対象

- ・第1回=2024年5月25日[土]・26日[日] 予定(定員未定)
- ・第2回=2024年9月28日[土]・29日[日] 予定(定員未定)
- ・第3回=2025年1月25日[土]・26日[日] 予定(定員未定)

(4) 美の友会月例美術講座(当館主催)一美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座(各月2~3回)として(本年度27回)開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の収蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◇書跡鑑賞シリーズXVII「国宝 源氏物語絵巻の詞書—仮名と料紙」

紫式部の著作『源氏物語』を平安時代後期(12世紀)に絵画化した国宝「源氏物語絵巻」。本講座では絵に対応する仮名の本文「詞書」に焦点をあて、五島美術館が収蔵する鈴虫一・鈴虫二・夕霧・御法の段を中心に、書道史・美術史の視点から「仮名」と「料紙装飾」の魅力について、わかりやすく紹介する。

〈担当=五島美術館学芸部 佐々木佑記〉

- 第1回 2024年4月6日[土] 「隆能源氏」の詞書内容
- 第2回 2024年5月4日[土] 仮名—五つの書風
- 第3回 2024年6月1日[土] 料紙—華麗なる装飾
- 第4回 2024年7月6日[土] 仮名—平安古筆との比較

◇特別展鑑賞シリーズV「古裂賞玩展を楽しむために」

秋の特別展「古裂賞玩」の鑑賞をより深めるための講座。「名物裂」に代表される染織の歴史をはじめ、室町將軍伝来の唐物絵画の表装、茶の湯の仕覆や「更紗」の包み裂、豪華な大名家の「裂手鑑」など、世界に例を見ない日本の古裂鑑賞の世界とその影響を紹介する。

〈担当=五島美術館学芸部 佐藤留実〉

- 第1回 2024年4月13日[土] 海を越えて:舶来染織の歴史を辿る
- 第2回 2024年5月11日[土] 輝きの演出:絵画・墨跡の表装にみる舶来染織
- 第3回 2024年6月8日[土] 古裂の名物:茶の湯と「名物裂」と「古渡り更紗」
- 第4回 2024年7月13日[土] 裂手鑑の世界:江戸時代の古裂ブーム

◇絵画鑑賞シリーズXIII「絵画の装い」

本講座は、2024年度特別展「古裂賞玩」を楽しむために、いわゆる「東山表具」に彩られた

「東山御物」(足利将軍家のコレクション)の絵画への理解を深めることを目標としている。空間を飾る掛軸形式の絵画鑑賞史にも注目しながら、作品の解説を行う。中国に学びながらも、独自の発展を遂げた日本の絵画鑑賞と美意識を探る。

〈担当＝五島美術館学芸部 下山來夏〉

- 第1回 2024年 4月 20日[土] 掛軸入門
- 第2回 2024年 5月 18日[土] 祈りの絵画と装い
- 第3回 2024年 6月 15日[土] 東山御物の絵画と装い(1) 三幅対
- 第4回 2024年 7月 20日[土] 東山御物の絵画と装い(2) 伝 牧谿筆

#### ◇考古鑑賞シリーズⅢ「考古学からみた日本やきもの史①」

日本のやきものの歴史はおよそ1万6千年に及び、世界でも稀有な長い歴史と他に類を見ない多様性を持っている。本講座では、発掘調査による成果を駆使しながら、縄文時代から江戸時代までの日本のやきものの歴史を、考古学的な視点から通覧する(11月・12月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 林克彦〉

- 第1回 2024年 9月 7日[土] 縄文土器① 原始芸術の精華
- 第2回 2024年 10月 5日[土] 縄文土器② 磨消縄文の魅力
- 第3回 2025年 1月 11日[土] 弥生土器 静逸の佇まい
- 第4回 2025年 2月 1日[土] 土師器と須恵器 実用の美
- 第5回 2025年 3月 1日[土] 埴輪 見せるやきもの

#### ◇陶磁鑑賞シリーズⅩⅡ「茶の湯の名碗① 唐物茶碗」

茶の湯の茶碗には、唐物・高麗物・和物などの種類がある。本講座では、そのうちの唐物茶碗について紹介する。中国でつくられた碗が日本へと渡り、茶の湯の変遷とともに評価が変化しながらも受容されてきた様子を、名品の数々とともにたどる(11月・1月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 菅沢そわか〉

- 第1回 2024年 9月 14日[土] 天目①—茶碗の中の宇宙
- 第2回 2024年 10月 12日[土] 天目②—様々な装飾と評価の移り変わり
- 第3回 2024年 12月 14日[土] 青磁—あこがれの茶碗
- 第4回 2025年 2月 8日[土] 染付—絵をまとった茶碗
- 第5回 2025年 3月 8日[土] 赤絵・絵高麗—多様な唐物茶碗

#### ◇古典籍鑑賞シリーズⅥ「漢詩・和歌を味わう」

大東急記念文庫収蔵の漢詩と和歌の本を紹介する。漢詩は日本で永く愛好された中国の詩文集や、江戸時代の漢詩人自筆の掛軸を鑑賞する。和歌は『百人一首』を題材に、典籍ごとの本文の違いをくずし字を解読して読み比べる。また注釈を読み、どう享受されてきたかを鑑賞する(10月・11月は休講)。

〈担当＝大東急記念文庫学芸部 長田和也〉



- 第1回 2024年 9月 21日[土] 唐詩・金沢文庫本『白氏文集』
- 第2回 2024年 12月 21日[土] 宋詩・五山版『黄山谷詩集』
- 第3回 2025年 1月 18日[土] 江戸漢詩の多彩な世界
- 第4回 2025年 2月 15日[土] 『百人一首』の成立以前・以後(以前編)
- 第5回 2025年 3月 22日[土] 『百人一首』の成立以前・以後(以後編)

#### (5) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ①こども美術講座「日本画を知ろう」 2024年 6月 2日[日]
- ②小・中学校等へ出張講義に赴く予定(日程未定)

#### (6) ミュージアム・コンサート

音楽を通じて、芸術・文化に触れる機会を提供し、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

- ①クアルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏演奏会 日程未定
- ②長唄演奏会一和のこころを聴く 日程未定

#### (7) 茶室特別公開

公開日＝2024年 5月 30日[木] (「館蔵 近代の日本画展」期間中)

2025年 1月 30日[木] (「館蔵 茶道具取合せ展」期間中)

\*入館者を対象に、通常非公開の茶室「古経楼」「富士見亭」を公開。

#### (8) 東急グループとの連携事業

東急グループとの連携事業を推進することにより、さまざまな機会、楽しみ方を提供し、当美術館、文庫や収蔵品に対する理解を深めてもらう。

- ① 特別鑑賞会「東急グループ感謝のつどい」開催への協力
- ② 東急グループ主催、後援の社会貢献活動(とうきゅうキッズプログラム、キネコ国際映画祭等)への協力
- ③ 東急文化村「MY Bunkamura」とのタイアップ企画の実施
- ④ 「東急ロイヤルクラブ」との連携イベントの実施
- ⑤ 東急グループ「五島美術館名品集」カレンダーの制作・監修(展示事業 1-3.参照)

#### (9) 他館、近隣等との連携事業

展示内容の親和性が高い根津美術館、三井記念美術館との三館連携事業など他の美術館・博物館や文化施設等との連携事業、近隣の商店会との地域活性化活動を積極的に推進する。

#### (10) 長野県小県郡青木村との連携事業

五島慶太の生誕地である長野県小県郡青木村、同村に設置された「五島慶太未来創造館」との連携をさらに深める。

#### (11) インバウンド需要の把握と対応

海外に於いて日本文化への関心が高まっているため、インバウンドの来館者数を把握し、館内施設やホームページの表記等の対応を進める。

#### (12) 4K映像の上映

本年は NHK 大河ドラマ「光る君へ」の放送が行われるため、国宝「源氏物語絵巻」、「紫式部日記絵巻」への関心が高まることが推測されるが、公開期間に制約があるため、展示期間の告知を年間を通じて徹底するとともに、4K 映像を常時上映することで鑑賞期待に応え、来館者の平準化をはかる。

### II. 公益目的事業② 大東急記念文庫

#### 1. 閲覧事業

##### (1) 図書閲覧

文学・歴史等の学術研究に資するため、大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう(許可制)。

##### (2) 展示

- ・大東急記念文庫創立75周年の記念行事として五島美術館展示室2を使つての特別展示、講演会を行う。
- ・その他、五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出しを行う。
- ・令和7年度に他の所蔵機関や研究機関と連携を図りつつ、五島美術館展示室2を使った特別展示等を企画しており、本年度にその準備を進める。

#### 2. 調査・研究・保存事業

##### (1) 図書調査

収蔵の古典籍資料調査を行なう。

##### (2) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料(辞典、叢書、全集、記録類等)や、必要な場合は古典籍資料を購入する。

##### (3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学等の研究の成果を

機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

#### (4) 図書保存

- ・文庫収蔵庫内の和古書と参考書誌、図書資料等との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、収蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・収蔵庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期し、予防策として本年もIPM(総合的有害生物管理)を実施する。新収蔵資料の防虫には特に留意する。
- ・不慮の災害に備え、資料の写真撮影などの副本作りを継続的に進める。本年度も『大般若波羅蜜多経』(鎌倉中期写本)等を撮影する。

#### (5) 図書修理

新収蔵資料の帙箱の新装、未表装資料の修理・表装を行なう。

#### (6) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第30回配本第17巻「美術」、第31回配本第18・19巻「古文書・名家筆蹟」の刊行準備をする。
- ・機関誌「かがみ」第55号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、影印本、マイクロフィルム等を頒布する。

#### (7) 普及

- ・各種団体(大学・研究会・図書館等)の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳正に検討して許可する。

#### (8) 国等各種公共機関・団体、大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言、大学への職員の派遣等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

# 収支予算書

令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 3,500,000]	[ 3,310,000]	[ 190,000]
基本財産受取利息	1,100,000	1,744,000	△ 644,000
基本財産受取配当	2,400,000	1,566,000	834,000
特定資産運用益	[ 1,000]	[ 1,000]	[ 0]
特定資産受取利息	1,000	1,000	0
公益事業収益	[ 110,681,000]	[ 105,589,000]	[ 5,092,000]
展示事業収益	49,395,000	45,244,000	4,151,000
調査研究事業収益	7,340,000	5,480,000	1,860,000
普及事業収益	17,890,000	17,390,000	500,000
文庫事業収益	1,000,000	1,000,000	0
カレンダー一収益	26,956,000	28,375,000	△ 1,419,000
売店収益	8,100,000	8,100,000	0
受取寄付金	[ 249,038,000]	[ 249,038,000]	[ 0]
受取寄付金額	180,000,000	180,000,000	0
受取寄付金振替額	69,038,000	69,038,000	0
雑収	[ 10,051,000]	[ 51,000]	[ 10,000,000]
受取利息	1,000	1,000	0
雑収	10,050,000	50,000	10,000,000
経常収益計	373,271,000	357,989,000	15,282,000
(2) 経常費用			
事業費	[ 338,763,000]	[ 339,703,000]	[△ 940,000]
役員報酬	7,225,000	6,504,000	721,000
給料手当	85,780,000	94,376,000	△ 8,596,000
臨時雇賃金	17,045,000	14,374,000	2,671,000
退職給付費用	3,964,000	15,844,000	△ 11,880,000
福利厚生費	16,531,000	16,917,000	△ 386,000
会議費	15,000	158,000	△ 143,000
旅費	152,000	152,000	0
交通費	200,000	102,000	98,000
通信運搬費	4,962,000	4,726,000	236,000
減価償却費	68,494,000	69,549,000	△ 1,055,000
ラウド用品料	774,000	0	774,000
消耗什器備品費	950,000	966,000	△ 16,000
消耗品費	1,200,000	1,013,000	187,000
修繕費	7,316,000	4,493,000	2,823,000
印刷製本費	3,000,000	3,000,000	0
宣伝広告知料	10,063,000	10,063,000	0
光熱水料	7,800,000	7,800,000	0
保険料	14,293,000	13,803,000	490,000
諸謝金	650,000	896,000	△ 246,000
租税公課	150,000	150,000	0
庭園管理費	7,800,000	4,420,000	3,380,000
委託費	7,600,000	5,156,000	2,444,000
展覧会費	15,860,000	14,360,000	1,500,000
	17,554,000	13,550,000	4,004,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
催 物 費	11,865,000	11,565,000	300,000
調 査 研 究 費	8,000,000	5,600,000	2,400,000
雑 費	1,015,000	935,000	80,000
カ レ ン ダ ー 制 作 費	13,781,000	14,507,000	△ 726,000
シ ョ ッ プ 原 価	4,724,000	4,724,000	0
管 理 費	[ 38,789,000]	[ 34,716,000]	[ 4,073,000]
役 員 報 酬	4,816,000	4,336,000	480,000
給 料 手 当	17,570,000	18,289,000	△ 719,000
臨 時 雇 賃 金	500,000	0	500,000
退 職 給 付 費 用	440,000	1,760,000	△ 1,320,000
福 利 厚 生 費	2,917,000	2,801,000	116,000
会 議 費	142,000	142,000	0
旅 費 交 通 費	298,000	298,000	0
交 際 費	500,000	210,000	290,000
通 信 運 搬 費	324,000	309,000	15,000
減 価 償 却 費	3,605,000	3,661,000	△ 56,000
ク ラ ウ ド 利 用 料	2,900,000	0	2,900,000
消 耗 什 器 備 品 費	34,000	34,000	0
消 耗 品 費	87,000	87,000	0
修 繕 費	434,000	434,000	0
印 刷 製 本 費	50,000	50,000	0
光 熱 水 料 費	753,000	721,000	32,000
諸 謝 金 費	1,464,000	1,464,000	0
雑 費	1,955,000	120,000	1,835,000
経常費用計	377,552,000	374,419,000	3,133,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,281,000	△ 16,430,000	12,149,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 4,281,000	△ 16,430,000	12,149,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,281,000	△ 16,430,000	12,149,000
一般正味財産期首残高	610,957,893	627,387,893	△ 16,430,000
一般正味財産期末残高	606,676,893	610,957,893	△ 4,281,000
II 指定正味財産増減の部			
受 取 寄 付 金	[ 20,000,000]	[ 0]	[ 20,000,000]
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[△ 69,038,000]	[△ 69,038,000]	[ 0]
受 取 寄 付 金	△ 69,038,000	△ 69,038,000	0
当期指定正味財産増減額	△ 49,038,000	△ 69,038,000	20,000,000
指定正味財産期首残高	3,431,297,533	3,500,335,533	△ 69,038,000
指定正味財産期末残高	3,382,259,533	3,431,297,533	△ 49,038,000
III 正味財産期末残高	3,988,936,426	4,042,255,426	△ 53,319,000

## 収支予算書

令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 3,500,000]	[ 3,310,000]	[ 190,000]
特定資産運用益	[ 1,000]	[ 1,000]	[ 0]
公益事業収益	[ 110,681,000]	[ 105,589,000]	[ 5,092,000]
受取寄付金	[ 249,038,000]	[ 249,038,000]	[ 0]
雑収	[ 10,051,000]	[ 51,000]	[ 10,000,000]
経常収益計	373,271,000	357,989,000	15,282,000
(2) 経常費用			
事業費	[ 338,763,000]	[ 339,703,000]	[△ 940,000]
管理費	[ 38,789,000]	[ 34,716,000]	[ 4,073,000]
経常費用計	377,552,000	374,419,000	3,133,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,281,000	△ 16,430,000	12,149,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 4,281,000	△ 16,430,000	12,149,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,281,000	△ 16,430,000	12,149,000
一般正味財産期首残高	610,957,893	627,387,893	△ 16,430,000
一般正味財産期末残高	606,676,893	610,957,893	△ 4,281,000
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	[ 20,000,000]	[ 0]	[ 20,000,000]
一般正味財産への振替額	[△ 69,038,000]	[△ 69,038,000]	[ 0]
当期指定正味財産増減額	△ 49,038,000	△ 69,038,000	20,000,000
指定正味財産期首残高	3,431,297,533	3,500,335,533	△ 69,038,000
指定正味財産期末残高	3,382,259,533	3,431,297,533	△ 49,038,000
III 正味財産期末残高	3,988,936,426	4,042,255,426	△ 53,319,000

## ◆資金調達および設備投資の書類

定款第7条に係る資金調達および設備投資の見込みについての注記

### 1. 受取寄附金

文化・芸術の発信を通じた社会貢献事業に取り組む東急株式会社からその活動の一環として寄附金の受領を見込む。

・一般寄附金としての受け入れ	180,000 千円
・今後の設備修繕、更新を用途とした指定寄附金としての受け入れ	20,000 千円

### 2. 協賛金

『文化大国日本』の一翼を担う企業集団を目指す東急グループより協賛金を見込む。

10,000 千円

### 3. 令和6年度設備投資

<主な設備投資項目>

パソコン取り換え	4,100 千円
菖蒲池付近近接家との境界線フェンス掛替	4,000 千円
売店レジスター交換	3,600 千円
簡易画像データベース	1,000 千円
第一展示室 展示用畳	750 千円
折り畳み式作業台	540 千円
デザイン作成ソフト	150 千円
設備投資総額	14,140 千円

### 4. 長期設備投資の考え方

今後10年間に美術館本館、別館で必要な修繕・更新として

建築関係	102,000 千円
電気関係	43,170 千円
給排水・配管関係	8,000 千円
空調関係	163,430 千円
合計	316,600 千円

上記の診断結果(東急(株)建築技術グループにて確認)があり、今後この対応方法と金額を精査するとともに、毎年度相当金額の積み立てをしていきたい。

### 5. 美術品の修復など

令和6年度の美術品修復の予定は下記のとおりといたしたい。

修復費用総額	2,000 千円
--------	----------

<美術品修復項目>

紙本墨書 小倉色紙 伝 藤原定家 1幅 (2年計画初年度として)	2,000 千円
----------------------------------	----------